悪性脳腫瘍に対する各種治療の効果に関する研究

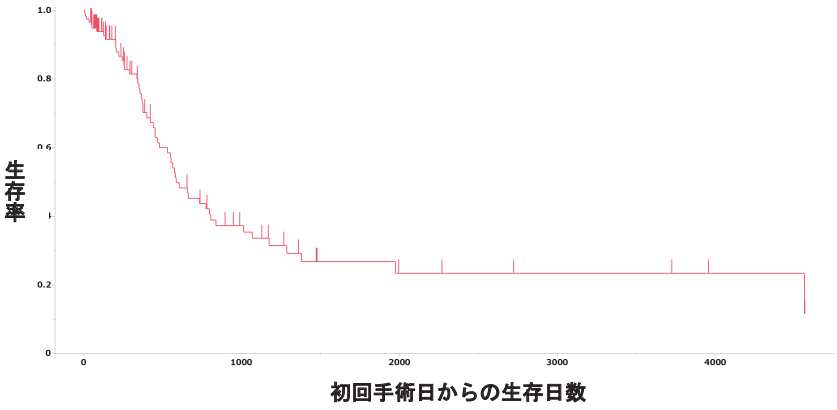
関連するSDGsの国際目標

人間看護学部　人間看護学科　　教授　　新田　直樹
研究分野：脳腫瘍、てんかん

脳の病気の患者さんが少しでも元気に長生きできる社会を目指して研究に取り組んでいます。

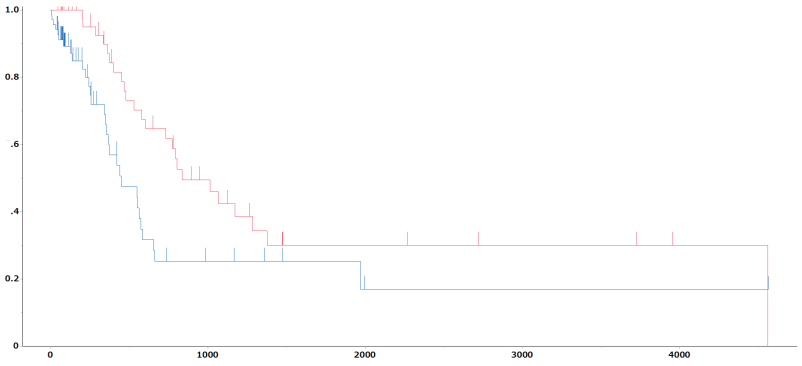
■抗がん剤テモゾロミドの効果

滋賀医科大学でのテモゾロミド治療導入後の悪性神経膠腫の患者さん119人の生存期間中央値は19.5ヶ月でした。テモゾロミド導入前、悪性神経膠腫の一般的な生存期間は１年程度であり、テモゾロミドが生存期間の延長に寄与している可能性があります。



■術前の状態

手術する前の状態が良い患者さんほど生存期間が長くなります。
自分の世話ができる50人：生存期間中央値836日
介助が必要な69人：生存期間中央値450日
で統計的に有意な差を認めます。
悪性神経膠腫では症状が悪化する前に病院を受診することが重要です。



■手術の効果

手術で腫瘍が大きく摘出できるほど生存期間の延長が得られました。
亜全摘出以上の54人：生存期間中央値1285日
部分摘出以下の63人：生存期間中央値441日
で統計的に有意な差を認めます。
悪性神経膠腫では合併症が出ない範囲で大きく摘出することが重要です。

